

第36回区民車座集会意見交換内容（麻生区）

- 1 開催日時 平成30年6月16日（土） 午前10時から午前11時55分まで
- 2 場 所 特別養護老人ホーム レジデンシャル百合ヶ丘
- 3 参加者等 参加者10名、関係者8名、傍聴者21名 合計39名

<開会>

司会：それでは皆様、定刻となりましたので、これより第36回区民車座集会を開会いたします。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます麻生区役所地域みまもり支援センターの佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は「支え合いの地域づくりを進めるために」をテーマに、ここ、東百合丘地域におきまして、こちらにお住まいの方々や活動されている皆様に御参加いただきまして、ワークショップを通して地域の強みや地域の課題と感じていらっしゃることを共有しながら、何ができるかを意見交換してまいります。

次に、行政からの出席者を紹介させていただきます。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：多田貴栄麻生区長でございます。

区長：おはようございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、開会に当たりまして、福田市長より御挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、改めまして、おはようございます。36回目を迎えました区民車座集会でありますけれども、今日は東百合丘ということで、ここは私の育ったまちで、東百合丘一丁目にずっと住んでいて、塔之越町会だったんですね。当時、少年野球チームで塔之越フェニックスというのがあって、そのメンバーでもあったり、本当に地元中の地元で、学校も長沢小学校、中学校ですし、何か初めて一番身近なところにやってきたということで、とてもうれしく思っています。

私の実家は、東百合丘二丁目に今もあるんですけども、そのエリアでもやっぱり、私の両親も大分高齢なんですけど、周りを見渡すと大分、高齢地域。子供さんたちが余り多くなく、全体的に年齢層が上がっているなど。あと10年するとどうなるのかなというのが、すごく心配になっている。それは東百合丘の問題だけじゃなくて、川崎市内に幾つもの、いろんな地域ごとによっていろんな課題がある。ですから、川崎市全体のとかというざっくりとした話でもなく、麻生区全体のというざっくりした話でもなく、もっと小さいエリアで自分たちのまちのことを考えていくということがとても大事だなということを、私たちは今認識しています。

そんなことで、今日は、このエリアの皆さんの、いろんな世代の方がいらっしゃるの、活発な議論ができればいいなと思っていますし、この地域にこんな人がいたんだということによって、つながることによって、また助かる部分、気づきがたくさんあるんじゃないかなと思っています。

今日は、この施設を貸していただいたレジデンシャル百合ヶ丘の皆さんにも心から感謝申し上げたいと思いますし、傍聴者の方もたくさん来ていただいています。本当にありがとうございます。実りある会にした

いと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

<紹介・説明>

司会：ありがとうございます。

これより、スライドを使って御説明しますので、市長と区長には席を移動していただきます。

それでは、本題のワークショップに入る前に、若干の紹介と御説明をさせていただきます。

本日のこの場は、地域包括支援センターが開催いたします、地域のさまざまな方々と地域の課題を話し合い、またその課題を解決していくためには地域にどんなものが必要なのかというの、話し合ったり検討したり、また支え合いのネットワークをつくることを目的とした地域ケア圏域会議という、非常にいかめしい言葉がつけられているんですが、そういった会議の場におきまして、今日のワークショップを行うものでございます。

地域ケア圏域会議なんですが、麻生区におきましては七つの地域包括支援センターがございますが、区民の皆様にもっと親しみやすい場ということで、ご近所ネットワーク会議というネーミングをしております。そのネーミングで、地域の方々に御案内させていただいているというところがございます。このネーミングは麻生区の地域包括支援センター独自のネーミングでございますので、これからは、ご近所ネットワーク会議ということで説明させていただきます。

次に、今回のワークショップで活用しております2つのツールがございます。そのツールの御紹介として、一つは、地区カルテと、もう一つは「ちいきのちからシート」について、順に御説明させていただきます。

まず、地区カルテの紹介を兼ねまして、この会場がございます麻生区東百合丘地域について、御説明いたします。お手元の資料もしくは前方のスライドを御覧いただければと思います。

本市では、住まい方、生活支援、医療、介護予防などの地域における必要な情報を継続して共有できるツールとして、小さな地域ごとの統計データや、地域資源の情報を整理した地区カルテを作成しております。地区カルテには、麻生区全体の状況と各地域における地域資源情報、統計情報などをもとに、地域の特徴や課題などをまとめております。

東百合丘は、多摩区、宮前区と隣接している地域で、山坂が多く、町会、自治会の規模も、世帯数が2桁から3桁まで、さまざまでございます。

また、東百合丘は一丁目から四丁目までありまして、東百合丘全体の人口はおおよそ7,900人となっております。14歳以下は13%、65歳以上は28%と、高齢化率は麻生区全体の平均、おおよそ23%よりも高くなっております。ちなみに、川崎市全体の高齢化率はおおよそ20%でございます。

地域全体の世帯数はおおよそ3,100世帯で、2人世帯が一番多く、32%。続いて、1人世帯が25%です。

居住期間別の人口を見てみますと、10年以上20年未満が20%、20年以上お住まいの方は30%となっております。ほとんどの方が10年以上、この地に暮らしていらっしゃるということがわかります。

お仕事をされている方は約3,500人で、半数に近い方が市外の職場ということがわかります。

地区カルテには、これらの統計データを町丁別でも掲載しております。

地域資源につきましては、学校は長沢小学校・中学校のほか、田園調布学園大学がございます。子供関係では、こども文化センター、保育施設、幼稚園があります。高齢者関係では、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター。介護関連施設では、グループホームや訪問介護サービスなどがあります。公園・緑地も18と、比較的多くございます。これらの地域資源を拠点とした健康づくりや介護予防、また子育ての自主サークルなどの地域活動も既に多く行われております。

地区カルテでは、具体的に何の施設がどこにあるのかを、一覧と地図に落とし込んで掲載しております。

平成28年度に当地域みまもり支援センターで行いました町会・自治会のヒアリングでは、地域特性である山坂が多いことによる課題や、小さい町会、自治会ほど地域住民のつながりが強い傾向があるということ、

それから全体的に防災に対する関心が高く、取り組みが進んでいることなどを知ることができました。共通して、高齢化による役員の担い手等の問題もあることがわかりました。

各町会、各自治会ごとの詳細につきましては、本年度、改めて町会・自治会ヒアリングを実施いたしますので、また御提示いただいた情報を地区カルテに反映していく予定でございます。

それでは続きまして、「ちいきのちからシート」について、御説明いたします。皆さんのお手元のシートを御覧ください。

「ちいきのちからシート」は平成28年に、先ほども申し上げましたが、地域みまもり支援センターの職員が区内の町会、自治会に出向いて、さまざまなお話を伺った際に、自分たちの地域は何が足りないのか、どのようなことから取り組みを始めたらいいかかわからない、自分たちの地域のことを客観的に知る方法はないだろうか、そういった方法を知りたいというようなお声を多数伺ったことから、地域の状況を考えるきっかけとなり、地域の課題を自分のこととして気づくことができるツールがあれば地域づくりの一助となるのではないかというふうに考えまして、作成したものでございます。

作成に当たっては、区内で独自の地域活動や支え合いの仕組みづくりを既に始めている区民の方々や、地域福祉に関する知見のある田園調布学園大学と区が連携しまして、5回にわたってヒアリングやワークショップを重ねながら、作成に至りました。また、本年2月に「ちいきのちからシート」の報告会という形で、さまざまな御意見をいただき、さらに改良を重ねているところでございます。御近所ネットワーク会議や、町会、自治会などでの話し合いの中で、実際に使っていただきたいというふうに考えております。

簡単に使い方を御説明いたします。

まず、各地域の力に関する24項目の質問に答えていただきます。その内容をカテゴリーごとに点数化し、レーダーチャートにおとすことによって、御自身が感じていらっしゃる地域の力を可視化、見える化します。その結果を皆様で見せ合いながら話し合うことで、地域の現状や課題を共有し、より住みやすい地域にするためにはどうしたらいいかということを考えてみるなど、今後の地域づくりに活用していただければということをお願いしております。

「ちいきのちからシート」の説明は以上でございます。

続きまして、ワークショップに移ってまいります。今回、ワークショップに御参加いただいております皆様には、事前に「ちいきのちからシート」に記入していただいた結果をもとに、感じていらっしゃる東百合丘地域の強みだとか課題を記載していただいた付箋を持って参加していただいております。各グループには東百合丘地域包括支援センター、区役所の地域みまもり支援センターの職員が入りまして、保健師がファシリテーターを務めます。10時50分ごろ、各グループのまとめを発表したいと存じますので、どうぞよろしく御協力のほど、よろしくお願いいたします。

それではワークショップを始めてください。よろしくお願いいたします。

(ワークショップ)

<発表>

司会：皆様、予定の時間になりました。いかがでしょうか。

それでは、ボードにも皆様がいっしょに感じていらっしゃる事が提示されてまいりましたので、ここでそれぞれのグループから、意見交換された内容を御発表いただきたいと思っております。大体3分ぐらいを目安にお願いしたいと思っておりますが、1グループと2グループ、どちらから。2グループから行きますか。

では、すみません、2グループから発表をお願いしたいと思います。マイクはありますでしょうか。

それでは、よろしくお願いいたします。

森さん：1グループの森と申します。ごめんなさい。2グループでした。

私たちの2グループは、自治会関係の方が3名、それから民生委員の方が2名、あと一般ボランティアの方が1名ということで、お話をいたしました。

最初に、強みといたしまして、多世代交流のできるサロンを10年間計画しているという話がありまして、そこで大変しがらみづくりができておりますということでした。その中で、個の力といたしまして、参加される方が、高齢の方でも役に立ちたいと、参加しても、何かできませんかということで、そういう人材の方が多いいいことです。

それとあと、自分たちのサロンとしてという意識がかなり出てきておりまして、例えば高齢者の方にいたしましたら、整形に皆さん、通われる方が多いんですね。通院される方が多いんですが、そのときに、もう30分、1時間待ち、2時間待ちのときに、整形友とおっしゃってまして、整形友ができます。その中でいろんな、私はこういう特技を持っている、教えているのよとか、そういうお話を、結構、整形友とおっしゃっていましたが、そういう方たちと知り合いました、企画の面で、自分でそうやって約束してきて、「今度は、いついつ来てくれるよ」ということで、「もう約束したからね」ということで、ボランティアさんはいるんですけど、そういうことで、自分たちのサロンという意識でやってくださっているという、個の力がとても見えてきているなと思います。

それから、安心・安全の面ですが、自主防災組織がとてもしっかりしているという自治会がございました。これは自主的に登録されておりまして、かなり人数も、40名、50名というところだそうで、かなりいろんな防災、それからいろんな、育児のこととか、そういう面でもかなり機能しているということでございます。

それとあと、つながりの面ですけれども、地域の活動で見守っているということなんです、どうしても買い物に行く場所が近くにないということで、移動販売車が最近伸びていってくださって、それを皆さん、利用されている方が増えてきました。

それから、公園の清掃などで、皆さん出て、いろいろ見守っているということですね。

それで、移動販売車が来ましたときに、かなり買い物をされまして、その後、すごく重いので、このときに近くにあります田園調布の学生さんが来てくださって、お家までちゃんと運んでいってくださると。大変、利用された方が、本当にもう完璧にフォローしてくださって、感心いたしましたというお話がありました。ということで、それは人材がつながりづくりをすごくできているということですね。

それとあと、弱みのほうなんです、活動する拠点が少ないというのが一番大きいという話ですね。それとあと、防災の倉庫も置くところがないんです。あとは、公園ですね。公園もとても少ないので、これもちょっと何かやりたいけれども、何もちょっと具体的に考えることができないので、というので公園などの場所、いわゆる拠点ですね、拠点が少ないという、それが弱みになっているということです。

それと、具体的な取り組みといたしまして、場所があれば、拠点があれば、若い方たちもかなり最近増えてきているという自治会があります。若い方たちからも、昔やっていた夏祭りだとか、あとは子供たちが多いいいのでソフトボールだとか、そういうことも復活してほしいという、新しい若い方たちからのお話が出ています。それも場所がないためというのでね、ありますので、ぜひそういう場所をつくってほしいなと思います。ですので、若い世代の子供たちが楽しめる場所をぜひつくってほしいので、よろしく願いいたしますということ。

以上です。どうも拙い報告でした。

司会：ありがとうございました。

それでは続いて、1グループ、よろしく願いいたします。

立花さん：塔之越自治会の会長をやらせていただいています立花です。どうぞよろしくお願ひいたします。

1班なんです、まず子育て真っ最中の、幼稚園、小学校、中学校を育てているメンバーと、あと長きにわたって活動している元ちょっと応援隊の方、自治会長さんのメンバー、ウォーキングボランティア、塔之越自治会のメンバーです。

まず、強みとしましては、高齢の方たちなんです、趣味の会ということで、まず自宅を開放していただいていることがあります。マーじゃんとか、楽しみにつながっているということですね。

あと、きずなづくりをしたいニーズがある。自治会の会合で話題に出る旧住民だけではなく、新しく入った住民たちからも、まず声が上がるといふことです。

あと、雪かきが必要なときに地域の男性が出てきてくれるんですね。これはふだん、余り自治会とか、地域に余り関係ない方たちが、男性が特に出てきてくださって、会話しながら地域活動をして、コミュニケーションができていふということです。

あと、多様なつながり、ちょっと応援隊の方たちが今12名いらっしやいます。元大工の方とか、近所の樹木を切る作業など、お手伝いリスト、ごみ箱を設置して下さったりとか、こういった感じの方たちが応援隊として活動して下さっています。

あと、自主防災組織、ちょっと応援隊の方のリストなどを公表してオーケーということで、実はいろんな人材がいるんですけども、なかなか表に出て下さってない、そういうことを公表して下さるといふことです。

あと、弱みとしては、地域拠点がない。集まりたくても集まれない。子育て世帯、参加の入り口がないと利用しづらいいいふことです。

あと、イベントをやる場所がない。塔之越まつりもそうなんです、本当は皆さん、コミュニケーションということで、やりたいんです、場所がないんですね。以前は明治製菓の場所が使えたんですが、やはり今は使えないということで、是非また利用したいなと思うんですが、なかなかそれは難しいといふことです。

あと、公園はあるんですけど、ボール遊びができない。思い切り走ったりとか、そういうことがなかなかできないんですね。あと、子供を連れていける距離にないといふのも、一つ問題だと思ひます。

あと、そうですね、子供を安心して遊ばせる場所がない。私は特に思うんですけども、自転車に子供をなかなか安心して乗せられないなといふことがありまして、自転車を、例えば車に乗せて、どこか違う大きな公園に行ったりとか、そういうことをしないと、ちょっと安全ではないなといふ感じがします。

あと、自治会の縮小傾向。加入者、役員数の減少をどう食いとめるか。一つ、高齢化が挙げられています。

今、私も会長をやらせていただいているんですけども、例えば10年後、今70歳の方たちが80歳になったとき、いろんな負担が多いので、やっぱりどうしても役員や会長をやりたいくないなといふ方も多いと思うんですね。それをやはりどう食いとめるかが、一つの問題のような気がします。

自治会の活動が減少するといふことも一つの課題です。

あと、それに伴って、活動を楽しめるような、役員さんも班長さんも、自治会の活動を楽しめるような活動をいろいろと考えていきたいなと思ひています。

以上です。

司会：ありがとうございました。どちらのグループもすごくいろいろ活発に意見を出されて、東百合丘地域の本当に強み、また拠点だとか、そういった課題が浮き彫りにされて、共有できたかと思ひます。

それでは、これから今、皆さんにいろいろ話していただいたことを踏まえまして、後半は意見交換に入っていきたいと思ひます。意見交換につきましては、市長に進行をお願いしたいと思ひますので、ここからはどうぞよろしくお願ひいたします。

<意見交換>

市長：皆さん、活発な議論ありがとうございました。

事前に一回、先月、皆さんに集まっていたいて、「ちいきのちからシート」でしたか、記入していただくことをやっていたいて、大体、顔は知っているというふうな形になっていたと思うんですけども、改めて、こうやって集まって議論してみると、何となくそう思っていたことを、やっぱりみんなそう思っていたんだとか、あるいは新しい発見もあったんじゃないかなと思います。

このこと自体が、僕はとてもすばらしいことだと思って、こういうものが、麻生区の中でどんどん議論が深まると、自分たちの持っている資源というものは、もっとこういうふうに使えば生かされるんじゃないかとかということが、あるいはここに行けばこんな人がいたのかと、隠れた人材を発見することもできるし、ということになっていくと思いますので、まず、このこと自体が、こういう議論が行われたこと自体がとてもすてきなことになっているんじゃないかなと、私はこの議論を聞かせていただいて、思わせていただきました。

どういうふうにこれからディスカッションを始めようかなと、今悩んでおりますけれども。一つ、印象的だったのは、第2グループの皆さんのところで、八木橋さんも田中さんも、それから大塚さんも、現役世代で仕事をされていたときというのは、地域にほとんど興味がなかったというか、余りかかわりがなくて知らなかったことが多かったんですけども、しかし仕事をやめて、地域に帰って、地域デビューしてみると、いろんな発見があって、そしてちょっと恩返ししなくちゃいけないなということを、それぞれの皆さんが御発言されていたのが非常に印象的でした。こういうふうに参加してくださる方がある一方で、まだまだ、清野さんが実はさっき言われていましたけれども、ボランティアの人たちに頼めばいいじゃんというふうに、自分が主体ではなくて、誰かに助けてもらえればいいというふうに頼っている人たちがいることも事実ですから、一人一人がもう少し自発的に、まちにかかわっていくためのしかけづくりをもっともっとやっていかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思いました。

森さんは実践されている、サロンをやっておられるんですか、ちょっと御紹介いただいてもいいでしょうか。

森さん：住んでいるマンションで、築もう40数年たったんですが、そちらで大体90世帯、170人ぐらいの住人がおまして、平成20年に民生委員になりまして、3年目ぐらいだったんですが、かなり高齢の方が多くなってきましたので、いろんな相談事を受けるたびに、これはやっぱり周りの顔、つながりをしたほうがいいんじゃないかということで立ち上げたんですが、それから多世代交流ということで、そのときは子供たちがとにかく多かったですね、20人以上の小学生がおまして、それに多世代、50代、60代、70代の方たちだったんですけども、とても、やっぱり多世代ですので、いろんな話題がさまざまで、例えば子供たち、若いお母さんが来るんですけども、そうすると、高齢の方、子育ての経験のある方たちといろいろお話をできるとか。

市長：場所はどこでやっておられるんですしたっけ。

森さん：場所はですね、マンションの裏に自治会館がございまして。

そこが4自治会の合同で運営している自治会館なんですね。ですので、結構利用の頻度が今多いですね。そこで立ち上げて。でも今子供が、10年前の子供たちがもう大学生、高校生になってしまっていて、小学生が二人ぐらい来るぐらいですけど、それでも何とかつながっております。

市長：なるほど。ありがとうございました。

自治会館があるという、場所があったというのはすごくいいことというかラッキーだったと思うんですけども、10年前にコミュニティカフェというかですね、サロンみたいなをつくるって、かなり先進的で、今はこの2年ぐらいで川崎市内どこ行ってもですね、居場所づくりという形でコミュニティサロンというかカフェとかというものが出てきたんですけど、かなり先駆的にやっておられたということにちょっと、さっきまわっていてびっくりして。すばらしい取り組みだなと思います。こういう多世代が集まって情報交換できるという場所がですね、すごく求められていると思いますし、実はこの場所さっきポスター見たら、カフェマルシェというんですか。施設長さん、もしちょっと御紹介いただければ、突然ですけど、申し訳ないんですけど。どういう形でやられているんでしたっけ。

外池さん：レジデンシャル百合ヶ丘施設長をしております、外池と申します。当施設では、この場所、マルシェというふうに名前をつけておりますけれども、どうやら人が集まる場所とかというような意味があるそうです。ここの御利用者ももちろんそうなのですが、地域の皆様もここに来てちょっとお茶を飲んだり、おしゃべりをしたりなんてことができたり、はたまた中での高齢者、御利用者たちとちょっとした交流ができればすてきなというふうに思っていて、このような取り組みをしております。

市長：それは、期間というか時間帯とか曜日だとかというのを教えていただいていいですか。

外池さん：水曜日は、すみません定休日とさせていただきますが、10時から16時までの間で、お茶と、コーヒー、紅茶等々を御用意させていただきます。

市長：それは、どなたでも使っていていいんですか。

外池さん：どなたでも御利用いただいて大丈夫です。

市長：なるほど。ありがとうございます。

実はこういう高齢者の施設のところも地域開放のスペースというのは意外とやっていたところって多いんですけども、こういったスペースというのも解放していただいているのはとてもありがたい話で、これも地域資源の一つですね。川崎市って全国の大都市の中で大阪市に続いて2番目に人口密度が高いので、基本的にはですね、ものすごくスペースとかあるいは空き地だとか施設だとかというのが少ないところだと思います。少ないところであるんだけど、じゃあ新たに公園がどんとつくれますかという、なかなか現実問題としてはどこにつくるのということもありますし、じゃあどこに新しい自治会館とかつくるのということ、なかなか難しいところありますよね。現実問題では。

そうすると、今ある施設をどうやってうまく使っていかということがとっても大事になってくると思うんです。そうすると、先ほど地区カルテにありましたように、私たちの地域にはどんなものがあるんだろうかと。実はこのレジデンシャル百合ヶ丘さんも地域開放をやっていただいて、水曜日以外の10時から4時までは使っていていいという話になっているというのは、これは大きな地域資源だと思います。

ですから、私たちのグループとは時間帯が合わないなという活動団体もあるでしょうし、いや、ここは合うなというふうな、例えばママさんたちの少し1、2時間打ち合わせしたいんだよという方にとってはすごく便利のところなのかもしれません。

ですからこういったことをですね、みんな洗い出していくというのも私たちの地域資源をもう1回再発見していくということの一つではないかなと思います。

立花さんから先ほど発表があって、昔は明治製菓のグラウンドが使えたんだと。私もよく遊びました、子

供の頃。入っちゃいけなかったと思うんですけど、子供の頃ですね。それでも使わせてもらっていました。何となく許容されていたなという感があったんですけども。これはイベントに使えないということですか。

立花さん：イベントでもそうですし、今、門が閉まっています、それはちょっといろんな理由があつて。以前は門が開いてたんで、誰でもお散歩とかできたんですが、今は門も開いてない状態です。その理由としては、昔からいろんな状況というか、理由があつて納得できるような理由もあり、閉まってしまっている状態なんですね。年に1回御挨拶に行きますので、明治製菓さんのほうに。今年も参りましたら、ちょっと使わせていただきたいんですけども申し上げたんですが、やはりいろんな会社の状況であつたりとか、いろんな状況を踏まえてちょっと今は無理というお答えをいただきまして、本当はお祭りとかもできれば一番広くていいかなと思うんですが、やはりそれはだめというか、ちょっと今は難しいというお返事で。昔はプールとかも使えたらいいんですけども。

市長：行きましたね。思い出しました、そうですね。

立花さん：だけど今はゴミが入ってたりとか投げ捨てられたり、いろんな状況でだめということです。

市長：なるほど。僕は、明治製菓のこと、確かにあんなに大きなというのは地域資源の、大きな地域資源の一つだと思うんですが、いろんな事情があつて今は使えていないということですけども、実はいい事例としては、宮前区の鷺沼地域に大きな野球場と芝生のグラウンドが大きいのがあつたんです。その会社の持ち物で、そこは会社にいるその従業員のための施設だからということで、完全に地域に閉じられていたんですけども、この10年ぐらいですかね、何度か交渉させてもらつて、そしてようやく一昨年条件がそろいまして、そのグラウンドの半分を地域開放していただけることになりました。ですから、今まで実は宮前区というところも野球をする人はたくさんいるんだけど、野球場がないところなんですね。だから、こういう施設を貸してもらえませんかということを粘り強くあちらの会社側にも区だったり市が入ったりして、一定の条件のところであつたら良いですよということまでこぎつけることができました。

ですから、ここの話というのは大変重要な資源だと思うし、ただ相手様もあることなので、これは一概にお願いします、何とかお願いしますというのでゴリゴリという話ではなくて、どういうふうなことが可能なのかというのは現状把握させていただいた上で、区なりそして市なりが、一緒に御相談させていただくということは、これは是非やらせていただきたいなと思います。

こういった、今まで使っていない、あるんだけど使われていないという施設というのは実はたくさんあつて、例えば学校もそうなんですけども、校庭は解放されている。体育館も解放されている。施設開放みたいな形な委員会が組まれていて、ある程度まわっているというふうなのがありますけれども、実はもっと、実はここのテーブル結構場所がないということで、かなりストレスが溜まっているお声が、イライラという声が沸いておりましたけれども、じゃあ自治会だとかそういうところの会館がないところってどういうところがあるのかといたら、学校の、例えばこれは議論あると思います。一般教室という、ここは全く解放されておられません。一般教室。ここは実は今教育委員会にお願いして議論をしている最中ですが、これは一般教室を解放してしまうとですね、これは生徒さんたちのプライベートなものというのが教室にありますから、ここがもし、いたずらされたりしてしまうとこれは問題があると。施設管理上問題があると。

学校がなぜあんなに開放されないのかというのは、実は校長が全ての責任を負わなくちゃいけないからなんです。何かがあつたら全て校長の責任。ですから、それは嫌ですよ。全部校長が責任をかぶるわけですから。ですから、そういうふうな責任問題とは少し分離して活用できるような方法がないかなということ、今教育委員会と僕たちで、議論させていただいている最中です。もしそういうことが、一般教室も解

放できる。それはセキュリティ上も大丈夫で、市民の皆さんにも使えることができる条件を整えば、小学校だったらいけるよと。夜7時からの解放でも2時間使わせてもらえるという。では、1年1組の学校の1階のフロアにある教室を使わせてもらいましょうというのはできるのではないかと思います。ですから、どのように、スペースだとかというなのは、実は地域の中にある。だけど、いろんなルールだとか民間企業の皆さんには民間企業の皆さんの事情があったり、学校には学校のルールがあったりということで、難しいところがあるんだけど、そこをどうやって突破するかというふうなのは皆の知恵の出どころで、それは市がやったり区がやったり、そして住民の皆様ももちろんのこと一緒になってやってもらわなくてはいけないということだと思うんです。その可能性も探っていくということはとても大事なことだと思いますので、ぜひこういう話も、こういう場所だからいろんな形が出てきて、議論を深めることができるんだと思うんですよね。こういうことを少し、こういうふうな意見が出たので、是非前に進めていきたいなと思います。

さあ、地域拠点がないのは、ここにもすごく弱みとして出てきました。あちらの第2グループでも拠点が無いのが弱みに出てきました。本当にそうでしょうか、ということ、確かに少ないんです。少ないことは間違いないです。他都市というか、地方都市に比べたら恐らく少ないと思います。しかし、本当にないのかということをもう一度探り出すというのもこの地区カルテ、そして小さなエリアでさっきこのテーブルでもありました。公園がありますと、浦井さん先ほど、18カ所も公園があるなんてびっくりしたと。先ほど言われていたことちょっと言っていただけではないですか。

浦井さん:塔之越自治会副会長の浦井と申します。私はこちらに引っ越してきて2年ほどになるんですけど、やはり住んでいる周りにやっぱり公園がない。ないのはやっぱり大きな公園がないので、なかなか子供をつれて遊びに行く機会がなかなか少なくなりました。ただ、今日市からの説明の中で、この地域には公園がいっぱいあるのだと。18カ所もあって、ここはどっちかという強みのように書かれているところに非常に驚きました。

市長:ありがとうございます。

ですから、そういう意味では、あるんだけど自分の家に近くにはないと。その感覚はないと。要するに、多いという数字上のものと、自分のところの子供と遊ぶ、ぱっと近くに遊びに行くエリアにはそうは思えないし、ということですね。だから、確かにそうなんだと思います。18カ所といっても、エリアによっては随分多いなというところもあるだろうし、もう少し狭いエリアで見れていると多いところ、少ないところというふうなところに偏りがあるんだというふうに思いますね。

実は、ボールを使えない公園問題というのは、これは川崎市全域で起こっています。今、だめだめ公園、あれもやっちゃだめ、これもやっちゃだめというふうな。じゃあどこでやるんだと。

当然私も塔之越に住んでいたところは空き地も若干残っていました。だから空き地でボール投げをやったりとか、あるいは昔はあんまり怒られなかったので、道路でキャッチボールしていました。しかし今道路もだめ、公園もだめ。では、どこでやるのと。学校開放も難しいというふうなことになる、ボール遊びができないということになって、今全体的な問題になっています。そこで今、やっているのが、もう少しルールづくりをだめだめから、もう少しありありの公園にしていこうということで、ただ行政がルールをつくってしまうと、同じような話になってしまうと。ボールはだめですか、ボール遊びはいいですかということになると、結局は皆反対派、賛成派ということになって議論が割れてしまうと。そうじゃなくて、公園を利用している人たち全体で、もう少し議論しませんかと。使い方、時間の問題、こういったものを皆で議論していくルールづくりを自主的にやりましょうと。そのお手伝いを区役所、道路公園センターが少しやっていきましようねというふうな形で、今ガイドラインがちょうど始まるころです。そういうふうな、少し自分たちの地域の中でどのようにやったら皆がハッピーなのかなと。確かにボールを遊びやって、隣に小さい赤ちゃ

んを抱えたお子さんがいたら、ボール遊び怖いよね。少し身体が虚弱になっている高齢者の皆さんの隣でビュンビュンボールが飛んでたら怖いよねということになるので、そこは皆でルールをつくっていこうじゃないかと。利用者の皆さんの中でですね。というふうなのを少し役所も中に介在して、議論しましょうよというのが今始まって、モデル的に二つぐらいのところでは今始まったところです。こんなことによって、だめだめ公園から少しでもありあり公園にしていこうというのは、これもまた知恵の出どころなんじゃないかなと思っています。

強み。これやっぱり強みをどうやって生かしていくか、弱いところは補っていかなくちゃいけないんですけども、強みというのを、どうさらに活かして高みを目指していくかということところがすごく大事なところなんじゃないかなと思っています。

すごく驚きを持ってみたんですが、自主防災組織、安全安心の防災がしっかりしていると。こちらもしっかりしている。あちらのテーブルでもしっかりしているという意見が出ました。これは実はすごく驚きと言ったら失礼な形なんですけど、自主防災組織がちゃんとできているところって、地域のつながりが非常に強いところなんですよ。これは、ほとんどニアリーイコールなんです。ですから、実は東百合丘の地域の人たちというのは、非常につながりが強いほうと。

大塚さん、どうですか。

大塚さん：今市長が指摘されていますけれども、確かにその部分は非常にあると思います。半面自主防災組織だけで捉えられる問題ではないんじゃないかと。御高齢の方とかたくさんいらっしゃいますので、これも大事なことですけど、それ以外でもまだまだ弱い部分があるんじゃないかなとは思っております。

市長：もう少し掘り下げて聞きますけど、自主防災組織のどのあたりが強いというふうにお感じになりますか。どなたか教えていただいてもいいですか。この地域のあれ、いいよと言われた方って他にいますか。

高橋さん：突然振られました。困惑してますので。

2004年に誕生してから、現在32名の隊員がおりまして、2カ月に1回全体会議を、大体20人前後の人が集まりまして、その地域の課題をきちんと協議して解決していこうということでやっています。

一つは、情報をきちんとつかまえていただくということで、何が私たちの地域では足りないのか、こんなときどうしたらいいのかという学びをしていくのが、役に立ったことが、多分7、8年かかったと思います。その中で、具体的な実践として最近やっているのは、やっぱり一番問題になるのが消火の問題です。防火用品全くありませんし、山のとっぺんで風の吹きぐあいによっては丸焼きになってしまうと。ただし、私たちにできるのは初期消火しかありませんので、スタンドパイプもここ2年ぐらいで2台一応取りつけました。それから、この家に消火器のあっせんをしまして、安くはありませんけれども、全体として40%ぐらいの台所に消防していただいて、まずは初期消火に努めるということですね。頑張ってきたことです。

まだ、スタンドパイプもきちんと学んでいませんけれども、百何人かの人たちが集まりまして、そのスタンドパイプの学習をやったりしています。それも、できるだけ地域に右半分とか左半分に分けて、2度やっていますし、その大きな課題、皆で男性がいなくても女性でもできるスタンドパイプの使い方をこれからきちんと慌てずにやれるようにしなきゃいけない時期に入っているかなというふうにも。もちろん、安全という意味では建物の改築できる力を持つ人たちにはそれをお願いしたり、それから部分的な強化対策をお願いしようということで、助成金問題だとか、そういった情報も含めて地域に報道しながら、やっぱり十数年たっていますので、それなりの力を持ってきたかなというふうにも思いますけど、でも、わかりません。そのときにできるだけ備蓄をしてもらうことも含めて、皆で自分たちでできるだけ、避難場に行かないで済むようなまちをつくりたいという、そういうモットーを掲げながら頑張っているところですけども。

市長：素晴らしいですね。素晴らしいですね。高橋さんは、それは自治会長としてやっておられたんですか。

高橋さん：3年ほどやりましたが、そこでは無理だなと思いました。

市長：今、その32名の方が集まっていたというのとは。

高橋さん：ボランティアです。ちゃんと隊長さんも副隊長さんも、情報担当もいますし、それぞれが個々にやっています。

市長：それは自治会内の話に紐づいているんですか。

高橋さん：そうです。自治会内の範囲です。

市長：素晴らしいですね。ちょっとすばらしくないですか、これ。びっくりするような先進的な。

高橋さん：やっぱり町会といいますと、1年ごとに皆変わりますから、私は町会長3年やって、これは自主防災のほうはボランティアで継続的に学びながら皆で一緒にやっていくことが必要だなというふうに思ったのと、ちょっと応援隊の活動ということで、介護保険から漏れるところに対する手当で自分たちにできることがあったら、できるだけ多くの宝の人間、大工さんも来ていたり、それからお医者さんだったり看護師さんだったり。今看護師さんのほうも15人いろいろ学んできてくださって、それを広めていくというようなことでやったりはしていますので。宝物をどうするかとかということ。

市長：そうですね。ありがとうございます。

とても、今の最後のキーワードの宝物をどうやって探すかというのは、実はどちらも出ていたと思います。素晴らしい地域人材がたくさんいるんだけど、そこがうまくちょっと引き出せていない、もったいない状態になっているんじゃないかなというふうにお話ありました。こういう発言していただいた方はこのグループの中にいらっしゃるんですか。

八木橋さん：皆さんです。塔之越自治会ですから。

市長：そうですね。

八木橋さん：塔之越自治会の自主防災。

市長：八木橋さん、この隠れている地域人材というのをどう生かしていくか、引き出していくかというふうなの、少しアイデアありましたら。

八木橋さん：アイデアというのはわかりません。やっぱり、ふだんからあの方はもともと何々をやっていらした方なのよみたいな、そういうお話を日常的にしているんだろうと思います。もともと塔之越は高橋さんの御主人のときからもう、すごくそういう地域のことで、自治会としてのやり方とか、まつりも立ち上げたし、ソフトボール大会もやってたしというつながりで、今、年齢のいつている方たちが若いころにはそう

やって自治会を1本にまとめてきたところなんですよ。その伝統が生きているんだらうというふうに思いますね。しかも、防災については、小学校までは山坂で遠いですし、行けないんですよ。いざとなったら、逃げるって言ったって。避難するって言っても。行けないですから、やっぱり自分たちのところで何とかするしかないということで、それこそ地震のときもちろんそうですけど、雪かきだとか、防災の人には震度4以上があったら、ポストのところに集まれとか、そういうような決まりというか、そういうことも言われてたりということがありますね。

民生委員のところにも、市に登録している人っていますでしょう、手助けが必要だという。そういう情報も入ってきているし、ちゃんと担当者、この方を補助するのは誰というのが自治会ごとに、班ごとに決まっていると。実際にどんな事態が起こるかかわからないですから、まずは自分のことですけど、それが済んだら、今度そういう人たちということは決まっていますね。

市長：塔之越自治会の役員さんって何年ごとに変わるんですか。

高橋さん：1年です。

市長：1年ですか。これ、川崎市7区ある中で、1年ごとに変わる町会長さんが最も多いのが麻生区ですね。圧倒的です、ちょっとほかの区には余り見られないケースだと思います。こんなに毎年変わるところが、自治会ってあるんだというのを逆にものすごく驚いていて、これはちょっとほかの6区では余りちょっと少ないケースですけど、麻生区は結構はありますね。

佐藤さん、このあたり誰が一番詳しいんだらう、麻生区の中というと。

佐藤（司会）：保健師の福川が・・・。

市長：ちょっと珍しいというか、麻生区の自治会は結構1年で変わるというのが多いですよ。

福川職員：町会、28年度にヒアリングに行かせていただいたときも、古くから何期にも渡ってやられている町会もあれば、やはり1年交代という方が、やはり多いなというのがあります。多分、麻生区だけなのかかわからないんですけども、町会の数がとても多くて、小さな単位での町会、自治会さんが多いので、やはり巡回、担当の役割を担うという部分でも、負担感から1年交代になっているのかなというのもあるんですが、確かにヒアリングの際も1年交代なので、なれたころにはもう次の方というところで終わっているというのは聞いています。

それはなぜかという、どうなんでしょう。

市長：これはそういう議論にはならないんですかね。少なくとも3年はやりましょうとかという。それもローカルルールでそれぞれあるんでしょうけど、仕事なれ始めたところにもう終わるとい。一長一短ですよ。皆が町会の役割を担うということを経験するという意味ではとても大事なことだと思いますけども、何となく経験値が次にもう1回もとに戻りたいなにもなりますよね。

田中さん、民生委員やっていただいたんでしたっけ。

田中さん：自治会の。

市長：自治会の副会長で。副会長さんも1年なんですか。

立花さん：田中さんは2年やっていただいて。

市長：田中さんは2年やっていただいて。ちょっと経験を教えていただいていいですか。ちょっと異例なんですかね、2年目というのは。

田中さん：そうですね、私は自分の班がやっぱり高齢の方が多くて、ちょっと病気とか会場に行くのに大変ということで、私は前の方の分と自分の分と2年目なんですけれど、やっぱり1年交代というのはちょっと、本当になれたところに終わりになってしまうということなので、ちょっとここで言うていいことかどうかはわからないんですけど、やっぱり私としては、何年か続けてやるとか、顧問とかそういうのを、そういう相談役みたいなをつくったほうが、1年交代だと本当に1から全部やり直すというか、それだけじゃなくて、逆に2年目になるんですけど、やっぱり続いて会長さんになられた方とか、結構基本的なこととか細かいことはやっぱり私のほうに聞いてこられるんですね。だから、マニュアルをつくるとか、もうちょっと考えなきゃいけないなということは感じております。

市長：なるほどですね、ありがとうございます。

単年度問題というのは、結構、これは麻生区の特徴的な問題かなというふうに思いますけれども。

一方で、こういうすてきなお話もありました。地域は高齢化しているのかもしれないけれども、若い人たちが入って、このまちづくりに参加していただいている。田園調布学園の学生さんが、はぐるまさんと一緒になってローソンの移動販売をやって、そこに若い人たちが入っていただいて、というのですてきな話もありましたね。清野さんのほうからお話あったんですかね。こういうふうな関わり方って、すごくいいなと思いますし、実はあれは多摩区の車座集会をやったときに、学生さんたち、多摩区も学校、大学多いんです。専修大学、明治大学等々とあるので、その人たちと皆議論したんです。学生さんたちだけで。そうすると、どうも僕たち、私たちは地域の人から何となく疎まれていような気がすると言うんですよね。そんなことないよと言ったんです。もうちょっと地域のイベント参加してよと。

これは麻生区でもやりました、1回。そうしたらですね、麻生区の町会の役員の皆さんと麻生区の大学の皆さんが、地域のイベントを教えてくれれば私たち行きますと。学校の学生さんたちのイベントで広報したいものがあるなら私たちに言いなさいと。そうすると町会のたよりに載せてあげるからというふうな形で、少し結ばれたという。

だから、決して疎まれていませんよと。むしろ、参加してもらいたいと思っているし、参加する機会というのものもあるし、そこがうまくつながっていなかったというふうではあるので、うまくここをつなげていくというのは、これもまたいろんな知恵の出どころかなと。

このお話、移動販売のお話、実はこの前高津区だったか多摩区だったかですね、この山坂の多い川崎の北部地域で同じようなことを考えている人がいて、そういうアイデアないかなと聞かれたので、麻生区で始まりましたよという話を、こういう成功モデルをほかにやりたいところってたくさんあるんですよ。ですから、こういう非常にいい、多世代で、あるいは学校を巻き込んで民間事業者の皆さんを巻き込んで課題を解決するというものをですね、いくらでも重ね合わせ方によってやれるのではないかというふうに思うんですね。さっきの、成功するか成功しないかわかりませんが、明治製菓のグラウンドの問題。学校のスペースの問題という形でも、これなんかはまさに山坂の多い麻生区ならではのこういった課題というのを、いろんな人たちの組み合わせによって解決することができると。ですから、やっぱり小さなエリアでマップを皆でつくって、議論することの大切さというのは、今回も大きなあらわれとなって出てきているのではないかなというふうに思っています。

どのぐらい時間残っていますかね。もう少し、あと5分、10分の話なんですけれども、何かここでちょっと言いたいよ、言い足りないことあるなどというのはありますか。あるいはお待ちをさせていただいている、皆さんでの何かコメントありましたら。どうでしょうか。この際せつかくですから、どういう組み合わせ方……。どうぞ、立花さん。

立花さん：たびたびすみません。防犯カメラのことなんですけれども、ちょっと今いろんな事件とかがありまして、塔之越、防犯カメラがないということで、入り口が中央通り一つだと思っんですね。できれば、あそこに防犯カメラの設置などをちょっと考えていただきたいなと思っんですが。よろしく願っいたします。

市長：それはですね、それぞれの自治会さんで申請をいただっというプロセスなので、ぜひそれを御検討いただければと思っます。

立花さん：補助金とかそういう。

市長：そうですね。

立花さん：わかりました。ありがとうございます。

市長：市でも補助を出していますし、県の補助とダブルで補助出していますので、使いやすい制度になってきていると思っます。

立花さん：わかりました、ありがとうございます。

市長：どうでしょう、ほかに。

是非、これをきっかけに、このような場をもう少し広げて、今日は非常に少人数で、ぎゅっつつまったお話いただっと思っんですけども、もう少し参加の輪を広げていく、もっとグループを幾つもつくってやっていくということ、やっっていくと、そうなのかと。自分は参加してなかったけど、こういうところなら参加できるんじゃないかなと。こういう地域の関わり方があるんだなと。昼間はだめだけど、夜は大丈夫。夜はだめだけど昼間は大丈夫とかですね。ちょっとずつ自分たちの持っている能力を出し合うと。さっき言われていたみたい、地域人材が本当に埋まっているというふうに思っます。

僕は今宮前区に住んでいるんですけども、地元の小学校で先週、PTA主催の運動大会というか競技大会があっったんです。私、妻がPTAの役員やっったものですから、それで参加していたんです。体育館ではバレーボール、校庭ではサッカー。お父さん、お母さんものすごい集まっているんです。そこでこんなにお父さん、お母さんたちけがしないかなって心配になるぐらいの集まり方なんですけども、そうするとですね、バレーボールやっっているところに、元全日本代表のバレーボールの人が出てきて、この地域にそんなすごい人いたのみたいなのが出てくるんですよ。そうすると、えらい盛り上げるんですね。その人たちも、初めて地域の中で自分の能力が還元されて、皆さんは大喜びです。でも、その人も喜びを感じてというような、これはたとえ話ですけど、そういった知識やノウハウを持っているすばらしい人材がこの東百合丘という小さなエリアで探してもものすごいたくさんのもがあると思っんですよ。そこをどう生かしていかしていくかというのを、もう少し議論を盛り上げていきたいなと思っますし、麻生区、これをきっかけにですね、麻生区もこれから区長を先頭に、いろんなところでこういうことをやっっていくということですので、麻生区全体で議論するよりも、こういう単位で何十回もいろんなところでやっっていくというような取り組みが

これから麻生区だけじゃなくて、川崎市全域で必要だと思っているんです。

何を市役所でやるべきなのか、何を区役所でやるべきなのか。自分たち、何をやるべきなのかということ、しっかり切り分けをしてその役割を果たしていく。

さっき自治会の活動の負担を軽減してというのがありました。役割を明確化してくださいということも、御意見ありました。これも私たち、今大きな議論をしていて、市全体の町会連合会の役員の皆さんとこれを議論しています。結構、私たち行政も反省するところ結構あって、あれもこれもやっぱり自治会にお願いし、というのが多いんですけど、果たしてこれは自治会さんにお願いすべき話なのだろうか。

そういった話で、今なるべく低減しようと。役所の仕事をまず整理しましょうと。お願いすべきことはお願いする。そこをお願いしなくていいものはやめるということで、一回仕事の棚卸を今やっている最中です。

ですから、ここの役割の明確化というのはとても大事で、何となくやっていた、これまでもやっていたというふうな話というのは、先程ここでも出てましたけれども、もう町会の役員の皆さん大分高齢化しているから、ポストに入れていく、重いんだよねという話というのは当然出てきている話なので、そういうことも明確化していく。

でも、話は全然違いますけれども、高津区ではですね、中学生は地域の防災力のものすごく大事な力だと認めてですね、少年少女の消防団の下部組織ができています。それは、高校生になると地域から離れると。意外と何かあったときには地域にいないと。だけど、中学生は実はいると。中学生の、もう3年生、2年生になれば結構活躍できるよと。そういう人たちが実は防災の中にもう入り込んでいると。

さっきの大学生との組み合わせ方と一緒にですね。では、市政だよりを配る、あるいは何まわすというふうな。高齢者だけの話なんだろうか、町会役員だけの話なんだろうか。もっと地域人材、もっと言えば、中学生。こういう人たちがいたら地域の中に関わってもらおうと。まあ、いろんな制約あると思います。しかし、もっと柔軟に考えるというのをローカルルールをつくっていくというのが、大事なのではないかなと思います。

何となく、私たちの市の役人の仕事もですね、私もそうなんですけども、何となくそんな感じを、これはこういうものだよなというふうに、何か既成概念があるんです。そこをちょっととっぴらってみると、意外とやれると。確かに地域は狭いと。そして公園も、あるいは施設も少ない部分があるんです。じゃあ、何で補っていくかというのを皆で知恵出して、解決の方法というのはあるのではないかなということも、実は今日のこの会議の中でもすごく僕は発見したし、皆さんの中でもちょっとヒントがあったのではないかなというふうに思います。

ちょうど時間ぐらいになりましたので、この辺にしたいと思いますが、是非これを機会にですね、もう少し議論を深めていただくという取り組みを、次回、何回も繰り返していただくと、そしてもっと輪を広げていただくといいのではないかなというふうに思っています。

最後に、いらっしやいましたら。大塚さん、どうぞ。

大塚さん：先ほどですね、場所がない、施設がないというような話もさせていただきました。我々、例えば明治製菓の問題にしましても、実際、先ほど立花さんがおっしゃるように、あちらの責任者の方からちょっと無理ですと、こういうふうに言われました。我々も、公園が地域にないよね、だけどどうしたものかねということで、我々のできる範囲内のことは、非常に小さいですね。

ただ、先ほど市長のお話の中で区もやっています、市もやります。そういう今やっておられるところですよという話を聞きましたので、非常に我々としては希望が持てました。これから、自治会の中で、せっかくこういうようなお話を頂戴しているので、いろいろと我々で考えて、できるところは我々でやって、その後どうしてもお願いするところは、お願いしても大丈夫なんだという気持ちが沸きましたので、今後ともぜひ頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

市長：どうも、大塚さんありがとうございました。

(拍手)

市長：ありがとうございました。

参加いただいた全ての皆さんに感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

(拍手)

司会：市長、どうもありがとうございました。また、今日、ワークショップに御参加いただいて、様々な意見を出していただきました皆様に感謝を申し上げます。

今日は、冒頭にも申し上げましたけれども、支え合いの地域をつくっていくためにできることというテーマで、どんなことから始めていったらいいかなというところを今日はこのワークショップ、ご近所ネットワーク会議の場をお借りしまして、ワークショップという手法を使って皆さんと意見を共有して話をしました。

今日の車座集会は、麻生区の特徴で、自治会長さん、町会長さんが単年度で変わっていかれるところのいろんな課題というのは、東百合丘地域だけではなくて、本当に区全体のところにあります。そんな中で、ヒアリングでどうやって進めたら良いかというような声を聴きまして、今日の車座集会で、まずは小さな地域の単位の中で皆でどんなことを感じてらっしゃるのかとか、こんなことだったらいいなというようなことをまず話し合ってみるといところから始めていただきたいと。そして、そのときには、今日少し御紹介いたしました、まだまだ改良の余地はあるんですけども、ちいきのちからシートなどを使ってみたり、また、地区カルテ、区役所で作成しておりますけれども、そういったものも活用しながら、こういった話し合いを、ぜひご近所ネットワーク会議や様々なところで活用していただきながら、まずは始めていただきたいという、そういうメッセージを、今日は市長のお力も借りて一緒にそういったことを広告塔にもなっていて、この車座集會を企画いたしました。

皆さんがワークショップをしている間、笑い声も聞かれていますね、すごく和やかな中でお話が進められて、これが地域の中でもそういった場が増えることを、私たちは願って、そして区役所、地域見守り支援センター、それから地域包括支援センター、そういった話し合いのお手伝いを一緒に寄り添って、一緒に考えながらお手伝いさせていただきたいという、そういった役割を、私たちやりますので、それをこの場でまた知っていただいて、ぜひいろんな地域の方、ほかの地域の方にもお伝えいただけたら本当に幸いです。

まだまだいろんな御意見をお聞きしたいところではございますけれども、閉会の時間が迫ってまいりました。最後に皆様にちょっとお願いがございます。今日の車座集會を通して見られて、御感想も含めて受付でお配りしておりますアンケートにどうぞ御記入いただきまして、それをまた私たち糧にして、また参考にして進めてまいりたいというふうに考えております。雨も上がって、ほっとしてございますけれども、本当によろしく願いいたします。

それから、今日この車座集會の場を貸していただきました、レジデンシャル百合ヶ丘様にも改めて感謝申し上げます。

(拍手)

司会：それでは、これもちまして、第36回区民車座集會をこれで閉会とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。